

『紡ぐ』

2021.1.15 第17号

発行 教育相談室「あした塾」

2021年が良い年になってほしいですね

新型 大雪とコロナウイルスの ダブルパンチ！



新年早々の大雪。除雪の毎日。ずいぶん苦痛したのではないでしょう。そんな折、穴水町でも新型コロナウイルスの感染者が出たとのニュース。昨斗一年間は感染者がゼロでした。大きな衝撃でした。

東京、大阪など全国11都府県に緊急事態宣言が发出されていますが、穴水町もあつめて緊張感を持った生活をいざなければいけません。

「医療崩壊を防がなければ...」「経済をまひさせなければ...」という難しい議論もあります。『命あつてのわかれ』『健康あつてのわかれ』です。行政に求めなければならぬことは当然ありますが、自分たちでできる努力も怠らなす。頑張っていくしかないですね。

感染した方たちのうちでも早い回復を願います。それから、正確な情報も飛びかかることでもあります。充分、心へ対応が求められます。

地方創生

穴水町のことを、もっと
考えませんか!!

石川町長は、昨斗の『広報おけす』11月号、12月号の巻頭コラムで地方創生について書いています。政府の施策について「机上の空論。問題の最大の原因は東京一極集中であり、この問題を解決しない限り、地方に人口が増えることはあり得ない。」とまで言っています。それでも「できる限りの取り組みをしている」と言い、12月号では「どなたか良い知恵があればご教示を...」と悲劇にも似た言葉が...。皆さんは、どんなふうに考えますか? 『しんぶん『紡ぐ』』第1号で「町民それぞれの立場で知恵を出し合っていくことが大事です。」と『紡ぐ』発行の意義と合せて書きました。本気になって「穴水町」のことを考えていきませんか!?

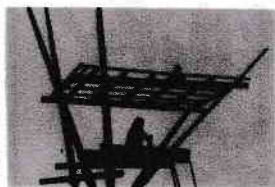
『紡ぐ』今年も...

『しんぶん『紡ぐ』』は今年も頑張ります。皆さんのご意見、提案、投稿など、さろくお願いいたします。取材してほしいことありましたら連絡ください。



穴水再発見

ボラ待ちやぐら巡り



天文学者パーシバル・ロー
イルが著書「NOTO」の中
で、怪鳥ロックの巣のよう

だと書いている「ボラ待ちやぐら」。やぐらの
上で終日、ボラの群れを見張り、網をた
ぐる原始的な漁法。穴水所には、最盛期
20基ほどのボラ待ちやぐらがありました。

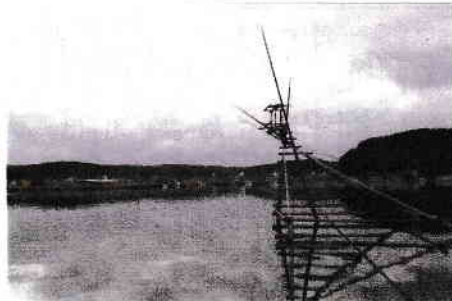
現在は、新崎地内の1基の他は観光用で
す。ち基あります。穴水所のシンボルの一つ
である。このボラ待ちやぐらを巡っておま
せな。新しい発見があるかも知れません。



唯一稼働している新崎地内の
ボラ待ちやぐらです



根木のボラ待ちやぐら



瀬戸内道のボラ待ちやぐら



椿崎のボラ待ちやぐら

穴水所のボラ待ち漁法は

1996年に途絶
えましたが、新崎
地区の漁師さんたちの努力で、2013年に復活しま
した。（「新崎・志賀地区里海・里山推進協議会」の皆
さん、金沢屋稜大孝、池田せいの皆さん、その他）

現在は、この新崎地内のボラ待ちやぐらで、実際に漁を
行っています。「根木」「瀬戸内道」「中居」「椿崎」のボラ待
ちやぐらは観光用ですが、「八幡宮駅」「能登長崎大仏」「瀬
戸内道」「中居とりの道」「のとワイン」などをルートにはさめ
ば、ゆっくり時間流れる穴水の地に豊かな気持ち
になれるのではないのでしょうか。



中居道のボラ待ちやぐら

この中居道のボ
ラ待ちやぐらの
写真は30数年
前に撮られた
です。現在あ
るものは少し
趣きはちがい
ますが、懐し
みください。